

- 1 題材名 和音の移り変わりを感じ取ろう (4時間)
 教材名 表現 (器楽) 「静かにねむれ」
 (歌唱) 「こげよ マイケル (Michael, row the boat ashore)」

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

- A 表現 (1) 歌唱 ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。
 イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関りについて理解すること。
 ウ(ア) 範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌う技能
 (イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能
 (ウ) 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能
 (2) 器楽 ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。
 イ(ア) 曲想と音楽の構造との関り
 ウ(ア) 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能
 (ウ) 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能
 B 鑑賞 ア
 イ

- 〔共通事項〕 (1) ア 音色、旋律、音の重なり、和音の響き、調、よびかけと答え、音楽の縦と横の関係
 ・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：和音の響き
 ・取り扱う音符、休符、記号や用語：ハ長調 I の和音 IV の和音 V の和音

学習指導要領では、「聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら、曲想と音楽の構造との関わりについて、児童が自ら理解するように指導を工夫することが重要」としている。本題材での「聴き取ったこと」は和音の響きとその変化などであり、「感じ取ったこと」は和音のよさなどである。I、IV、Vの和音の性質や各声部の役割を確認したり、主旋律と副次的な旋律が重なるときと重ならないときとの響きの違いを比較したりしながら、各声部の声や楽器の重なり方、曲全体の構造などの特徴に目を向けることが「知識」に関する資質・能力を育てることにつながると考える。また、各声部の楽器の音や声、全体の響き、伴奏などを聴いて、音を合わせて演奏することで「技能」に関する資質・能力を育成できると考える。本題材の最後には自分の歌声を全体の中の和音の一部として調和させながら歌えるようにしたい。そして、身に付けた知識や技能を生かして、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができるようにしたい。

本題材で和音の移り変わりの学習をすることで、今後、合唱をする際に「今、重なった音はきれいな和音になっていた」や「今の音は和音の学習をしたときのように、すっきりしていなかったから、音がまちがっているかもしれない」などといった視点をもって、音楽表現を探究する学習につなげていきたい。

(2) 指導観

本題材では、導入で単旋律の「静かにねむれ」を歌わせる。その後で主要3和音I、IV、Vの根音である「ド、ファ、ソ」のみを伴奏として旋律と共に演奏させる。単旋律で歌唱した時と、「ド、ファ、ソ」で伴奏をしながら歌唱した時とでは奏でられる響きが異なる。この違いを感じ取らせることで「旋律にド、ファ、ソだけで伴奏をつけることができすごい」という児童の感動を引き出すことができるだろう。児童の意欲が「ド、ファ、ソ」に向いたところで、ハ長調の音階を示しながら「ド、ファ、ソ」がそれぞれ音階の1番目、4番目、5番目の音であることを説明し、I、IV、Vの番号の意味について理解させる。さらに、ド・ファ・ソの音を根音として等間隔に音を重ねることで、和音を構成できることについて説明し、「I」「IV」「V」の和音記号とそれぞれの和音の構成音との関係について理解させる。

第2時では、第1時で学習した和音を伴奏として「静かにねむれ」の旋律と共に演奏する。友達の演奏を聴きながら息を合わせて演奏することで、和音の響きを味わわせることができるだろう。

第3時では、和音の移り変わりによって生み出される表情に着目していく。普段行っている号令がⅠ→Ⅴ→Ⅰの和音であることを確認し、実際に和音に合わせてお辞儀をする。その後でⅠ→Ⅳ→Ⅰに変えてもう一度お辞儀の動作を試みる。この時、お辞儀をするに違和感を感じる児童が「お辞儀できない」「変な感じがする」という反応をすることが予想される。この反応から、Ⅰ→ⅣとⅠ→Ⅴの性質が異なるものであることを確認したい。また、和音のみで「静かにねむれ」の演奏をし、どの部分の和音が一番好きか選ばせる。お気に入りを選んだ理由を考えることで和音の移り変わりによって生み出される表情の変化を言語化することができる。言語化することで、友達の感じ方に共感したり、自分の感じ方を見つめたりすることができ、より深く和音について理解できるだろう。

まとめとなる第4・5時では、「こげよ、マイケル」を歌唱する。ここでは、和音の響きや和音の移り変わりの美しさ、旋律と和音が重なる豊かさや、斉唱部分と合唱部分の違いを感じ取らせ、和音が入ることによって曲の雰囲気が盛り上がり、美しく感じたりすることに気付かせたい。最後には和音を味わいながら合唱する。まとめの合唱では、自分の歌声を全体の中で調和させて歌うことで、和音の響きや和音の移り変わりのよさを味わいながら歌えるようにしたい。

3 題材の目標

- 旋律、Ⅰ・Ⅳ・Ⅴの和音の響き、調や音の重なりなどと曲想との関わりを理解して、和音の移り変わりに気付いたり、互いの音を聴き合ったりして表現する技能を身に付ける。 (知識及び技能)
- 和音の響きやその移り変わりについて聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考えながら、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。 (思考力、判断力、表現力等)
- 友達と協働して、和音の響きやその移り変わりを感受して表現する学習を通して、和音の響きへの興味・関心を深める。 (学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準 ※評価略記号 知識・技能 知 技 知技

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 知 曲想と旋律、和音の響き、調との関わりを理解している。 ② 技 思いや意図に合った表現をするために必要な、各声部の歌声や響きを聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。	① 和音の響きやその移り変わりを聴き取り、表情の変化を感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、和音の移り変わりのよさを見出している。 ② 曲想と音色や音の重なり、和音の響きの違いについて考え、声を合わせて曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	① ハ長調の和音の響きやその移り変わりに興味・関心をもち、それらの美しさを感じ取りながら演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 ② 和音の響きやその移り変わりに興味・関心をもち、友達と協働して和音の響きの美しさを感じ取りながら合唱する学習に主体的に取り組もうとしている。

5 研究の視点

【視点2】音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立て

○学習の見通しをもちやすい題材構成

題材の導入では、I、IV、Vの和音の根音のみを扱い、演奏する。そうすることで、和音記号「I IV V」の意味を、実感を伴って理解することができ、和音の学習に取り組みやすくなると考える。第2時では、第1時で学習した根音の上に音を重ね、和音を使って演奏する。ここでは、和音の響きのよさや旋律と和音の重なりを味わいながら演奏できるようにする。重ねる音を少しずつ増やして学習を進めることで、和音の成り立ちや記号の意味を理解させたり、和音を重ねることによる響きの違いをじっくり味わわせたりすることができるだろう。第3時では、体を動かす活動を通して和音の移り変わりによって生まれる表情の変化について考えさせる。ここでは、感じ取った表情の変化を言語化することで、音楽的な見方・考え方を働かせ、友達の感じ方に共感して和音の響きの変化をより深く味わわせる。第1次で美しい和音の響きやその移り変わりを味わうことで、第2次の合唱では、自分たちの歌声が美しい和音の響きになっているのかを耳で確かめ、よりよい合唱にするためには音色や声量のバランスをどうすればよいかと思わせることができるだろう。

○見方・考え方を働かせて和音の移り変わりを味わうための体を動かす活動

第3時では、毎回授業の最初に行っている号令に目を向けて、I→V→Iの音に合わせてお辞儀の動作をさせる。ここで、I→IV→Iでも体を動かす活動を行うことで、I→VとI→IVそれぞれの和音進行の表情の違いに気付かせることができると考える。さらに、I（直立）、IV（両手を広げる）、V（手を交差して肩に置く）という動きを「静かにねむれ」の和音進行に合わせて行うことで、お辞儀の動きで考えた和音の移り変わりによる表情の変化を改めて感じ取らせたい。最後に、「静かにねむれ」の和音進行の中で自分の好きな箇所を選び、その理由を考えさせることで、これまでの学習を生かして和音の移り変わりを聴き取り、響きの変化やそのよさを感覚的に味わう学習を展開することができるだろう。

【視点3】評価の在り方

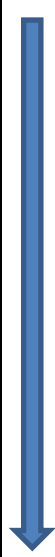
○学習の振り返り

学習の振り返りを行うことで、その時の学習で分かったこと、考えたことを評価することができる。その際には、振り返りで何を書けばよいかを、明確に指示する。第1時では、和音の学習の導入として「静かにねむれ」を歌いながら和音の根音を伴奏として演奏する。たった三つの音だけで伴奏を奏でることができる経験をさせるので、振り返りには、「I、IV、Vのすごいところ」について記述させる。第2時では、「静かにねむれ」の旋律にI、IV、Vの和音の伴奏をつけて演奏する。3和音の美しい響きを味わうために、縦をそろえて演奏する学習を行うので、振り返りには「ぴったりそろえて演奏するために工夫したこと」を記述させる。第3時は和音の移り変わりによって生まれる表情の変化を学習させる。学習した内容をまとめることが必要と考え、「和音の勉強を通して一番感動したこと」を記述させる。第1時では、「重ねたらきれい」などの漠然とした振り返りをしていた児童が、第3時では「和音が変わると感じ方も変わるのが感動した」というように、和音進行の響きから感じ取ったことを振り返ることができるようになるだろう。そのような変容から、主体的に学習する態度を見取りたい。

【コロナ対応として】

- ・音楽室に入る前後には、手洗い・消毒を徹底する。
- ・常に喚起を行い、児童の席は前後 1.5m、左右 2mの間隔を開ける。
- ・全員のマスク着用を義務付け、マスクが汚れたり、破れたりしてもすぐに対応できるように、常に新しいマスクを用意する。

6 題材の指導計画及び評価計画（5時間扱い）（本時 3 / 5）

次	時配	◎ねらい　○学習内容　・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素、 （音符、休符、記号や用語）〕	○教師の働きかけ ・目指す児童の姿	評価規準 （評価方法）		
				知 技	思	態
◎Ⅰ、Ⅳ、Ⅴの和音の響きを味わう。					①知 （記述・発言・観察）	
第一次	第1時	○「静かにねむれ」を単旋律で歌う。 ・単旋律に合わせて歌う。 ○「静かにねむれ」に伴奏をつける。 ・魔法の音「ド、ファ、ソ」を知る。 ・「静かにねむれ」を歌いながら「ド、ファ、ソ」をトーンチャイムで演奏する。 ・和音について説明する。 ☆〔音色、調、和音の響き、（Ⅰ度の和音、Ⅳ度の和音、Ⅴ度の和音）〕	○根音の音色を味わうため、単旋律にⅠ、Ⅳ、Ⅴの根音（ド、ファ、ソ）で伴奏をつけるように促す。 ○学習の見通しをもたせるため、オルガンで単旋律と「ド、ファ、ソ」の伴奏で模範演奏をし、歌とトーンチャイムで同じように演奏をするように指示する。 ・「静かにねむれ」を自分の役割を自覚し、何度も楽しみながら演奏している。 ○次時の学習につなげるため、ハ長調の音階を提示し、「ド、ファ、ソ」を根音として和音が構成できることを伝え、次回はⅠ、Ⅳ、Ⅴの和音で伴奏をすることを伝える。			
	第2時	○「静かにねむれ」に和音の伴奏をつける。 ・「静かにねむれ」にⅠ、Ⅳ、Ⅴの和音をつけて伴奏する。 ・グループで練習してから、全体で合わせるようにする。 ・最後に旋律は歌わず、和音のみで演奏する。 ☆〔音色、旋律、調、和音の響き、音楽の縦と横の関係、（Ⅰ度の和音、Ⅳ度の和音、Ⅴ度の和音）〕	○「静かにねむれ」を思い出すため、前時に学習した「ド、ファ、ソ」で伴奏をつけながら演奏するように促す。 ○全体で合わせる時に、友達の演奏を聴いて合わせるようにするため、グループで反復練習してから、全体で合わせることを確認する。 ・グループで何度も練習し、全体で合わせる時には友達の音をよく聴き、合わせようとしている。 ○次時の学習の見通しをもたせるため、学習の最後には、和音のみの演奏をし、次回は和音の移り変わりについて学習することを伝える。			
	第3時（本時）	○「静かにねむれ」の演奏をする。 ・歌いながら和音で伴奏をつける。 ・和音のみの演奏をする。 ○和音の音色に着目して、和音の性質を考える。 ・Ⅰ→Ⅴ→Ⅰが号令の音であることを知り、トーンチャイムに合わせてお辞儀をする。	○本時は和音の移り変わりについて学習することを確認する。 ○和音の表情やその変化に着目できるよう、旋律を歌わずに、和音のみで「静かにねむれ」を演奏させる。 ○Ⅰ→Ⅴ→Ⅰの号令とⅠ→Ⅳ→Ⅰの号令を比べさせることで、Ⅰ→ⅤとⅠ→Ⅳでは表情の変化が異なることに気付かせる。 ・Ⅰ、Ⅳ、Ⅴの和音が変化するとどのような			

		・ I → IV → I と I → V → I の音に合わせて、お辞儀の動作をしてみる。 ・ I → IV → I や I → V → I と和音が移り変わる時、和音の表情がどのように変化するかを話し合う。○「静かにねむれ」の演奏をする。 ・ 和音の音をよく聴きながら、旋律に合わせて和音の演奏をする。 ☆〔音色、旋律、調、和音の響き、音楽の縦と横の関係、（I 度の和音、IV 度の和音、V 度の和音）〕	響きになるのか、体を動かしながら受ける印象の違いを比較しながら考えている。 ○和音のみの演奏では、半分のグループごとに行い、演奏をしないグループは I（気をつけ）、IV（手を大きく広げる）、V（手を肩におく）に合わせて体を動かすように伝える。 ○学習の最後に旋律と和音の学習のまとめであることを伝え、味わいながら「静かにねむれ」の演奏ができるようにする。 ・ 旋律と和音の響き、和音の移り変わりによって表情が変化する美しさを味わいながら演奏している。		
◎「こげよ、マイケル」を合唱する。					
第二次	第 4 時	○「こげよ、マイケル」の主な旋律を斉唱する。 ・ 斉唱部分と合唱部分を比べながら歌う。 ○「こげよ、マイケル」を合唱する。 ・ 3 パートに分かれて練習をする。 ☆〔音色、旋律、調、和音の響き、音楽の縦と横の関係、（I 度の和音、IV 度の和音、V 度の和音）〕	○「こげよ、マイケル」の合唱の CD をかけながら旋律を覚えるようにする。 ○斉唱部分と合唱部分を歌ったときの感じ方の違いを考えるように促す。 ○三つのパートの音の重なりが和音になっていることに気付かせ、それぞれの響きを確認させる。 ・ 自分が和音の中のどの音を担当しているのか、考えながら歌唱している。		
	第 5 時	○「こげよ、マイケル」の旋律を思い出しながら歌唱する。 ・ 3 パートに分かれて練習する。 ○主な旋律と副次的な旋律の違いに気を付けて「こげよ、マイケル」を合唱する。 ・ クラスを半分に分けて合唱を聴き合い、声量のバランスについてアドバイスする。 ☆〔音色、旋律、調、和音の響き、音楽の縦と横の関係、（I 度の和音、IV 度の和音、V 度の和音）〕	○和音の響きやその移り変わりを感じながら、響きのある声で歌うように促す。 ○音色を合わせることで和音の響きが美しくなったことや、声量に気を付けることで主な旋律が際立って曲の特徴を生かした合唱になったことなどを価値付ける。 ・ 和音の響きを味わいながら、「こげよ、マイケル」の合唱をしている。		

7 本時の指導（3／5）

（1）本時の目標

「静かにねむれ」を演奏し、ハ長調の和音の響きやその移り変わりのよさを味わう。

（2）本時の展開

学習内容・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素〕	○教師の働きかけ・目指す児童（生徒）の姿 ◇評価規準〈評価方法〉 ＊コロナ対応（場の設定や支援、配慮事項等）
1 前時の学習を振り返る。 ・「静かにねむれ」の旋律を歌いながら、トーンチャイムで和音の伴奏をする。 2 本日の目標を知る。	○友達の音をよく聴き、合わせるように促す。 ・友達の音と旋律に合わせて、ずれないように息を合わせながら演奏する。
「静かにねむれ」の和音のよさを見付けよう。	
3 和音の移り変わりによって感じられる表情の変化について考える。 ・I→V→Iをトーンチャイムで演奏し、それに合わせてお辞儀をする。 ・I→IV→Iをピアノで演奏し、それに合わせてお辞儀をする。 ・2つの和声進行の違いを話し合う。 4 「静かにねむれ」の和音に合わせて体で表現をする。 5 「静かにねむれ」の和音の移り変わりを味わう。 ・「静かにねむれ」の和音のみをトーンチャイムで演奏する。 ・自分が好きな和音を探し、その理由を書くようにする。 ☆〔和音の響き、音楽の縦と横の関係〕	○いつもしている号令をオルガンで行い、この号令がI→V→Iであることを伝える。 ○前半のグループと後半のグループで別れて、それぞれトーンチャイムに合わせて号令の動きをするように促す。 ○オルガンでI→IV→Iの号令をし、それに合わせてお辞儀をするように伝える。 ○いつものようにお辞儀をしづらそうな児童に「なぜそのような動きをしたのか」を問う。 ・I→V→IとI→IV→Iの号令を比べ、違和感を言葉や体の動きで説明する。 ○I（直立）、IV（両手を上に上げる）、V（両手を交差して肩におく）という動きを「静かにねむれ」の和音に合わせて行うように促す。 ○和音の響きを聴きながら演奏するように促す。 ・和音の響きの移り変わりに耳をすませ、表情の変化の美しさを味わいながら演奏している。 ○自分が好きだと思う和音を探すように促す。 ○理由を書く時には、お辞儀をした時や、体で表現をした時に感じたことをヒントにするように助言する。
◇和音の響きやその移り変わりを聴き取り、表情の変化を感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、和音の移り変わりのよさを見出している。（思考・判断・表現） 〈ワークシート〉	
6 「静かにねむれ」を全体で演奏する。 7 振り返りをする。 ・今日のめあてに対する振り返りを行う。	○和音の響きをよく聴きながら、息を合わせて演奏するように促す。 ・旋律と和音の重なりや和音の移り変わりを味わいながら、演奏をする。 ○振り返りとして「和音の勉強をして一番感動したこと、わかったこと、おもしろかったこと」を書くように伝える。

	◇ハ長調の和音の響きやその移り変わりに興味・関心をもち、それらの美しさを感じ取りながら、演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) (振り返りシート)
--	---